

新宮山彦ぐるーぷ第2102回

釈迦ヶ岳他2ヶ所に靡看を板設

◇実施日…2020年10月25日(日)晴

◇参加者…沖崎吉信、橋本梓、生熊千満子、濱野兼吉、児嶋道夫

高階美根子、山川治雄・自知、上村洋司・和美、湯川

一郎、野崎肇、梶野照雄、瀧本昭太郎、斎藤和美、高

橋桂太、伊藤光男、藤塚学、坂野良

19名

靡看板の設置を予定している最北端、第40靡釈迦ヶ岳に靡看板を設置、都津門、深仙宿の2ヶ所にも設置した。深仙宿より南側の五角仙、聖天の森、大日岳については、看板と杭を深仙宿まで運び、灌頂堂内にデポした。



朝8時の登山口

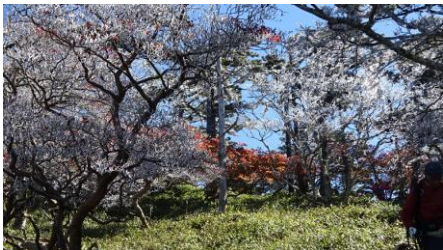


作業内容の説明



不動木屋登山道分岐で

当日朝、8時半に登山口に集合。8時少し前に到着したが、駐車車両は50台近くあり、トイレ周辺は車で溢れかえっていた。野崎さんと、初参加の4名がすでに到着していた。後続の車両は500m近く下った所に駐車するしかなかった。
沖崎さんから本日の作業予定の説明があり、靡看板6枚と杭6本を分担して担ぎ出発した。



霧氷と紅葉

釈迦ヶ岳靡看板設置

本日の参加者

不動木屋登山道分岐と古田の森で小休止、千丈平では休まず奥駈道三差路で集まり、釈迦ヶ岳の靡看板だけを持って山頂に向かった。千丈平から上は木の枝に霧氷の花が咲き、ゴヨウツツジの紅葉とが素晴らしいコラボレーションを見せている。気温は低くおまけに風も強い。体感気温は0℃に近かった。

釈迦ヶ岳山頂で靡看板を設置する。釈迦像の少し北側、石積の前に杭を打ち込むが、深くは入らなかった。根元に石を積み上げて固定、看板設置を祝って万歳三唱を行った。

山頂の釈迦如来像の光背（輪光）が風で前後に揺れていた。光背の先端を留めているボルトが外れている。逆光で良く判らないが、折れていると言う報告もあった。光背は4分割でそれぞれをビス止めして円形を作っているが、そのうちの1ヶ所もビスが外れていることが判った。このまま放置しておくとも最悪の場合、光背の折損と折損による頭部等への傷が考えられる。高さ4.5m位の最上部だけに修理の方法を十分に検討しなくてはならない。



ボルトが外れた光背

ゴヨウツツジの紅葉

山頂から奥駈道三差路に戻って山川さん等8名が先に下山、昼食を済ませて深仙宿へ下る。奥駈道三差路から暫くの間、笹の伸び方が激しく、足元の見えないところが多い。ヘッジトリマーで刈りながら降りるが、時間が十分に取れないので部分的にしか刈ることが出来なかった。



都津門に靡看板

灌頂堂に看板をデポ

深仙宿に靡看板

都津門で靡看板を設置、都津門の位置を示した標識も立てた。深仙宿では灌頂堂の傍に靡看板設置、コジマカフェのコーヒードレスして休憩して千丈平に登り返す。各々に鎌を持ってもらい笹を刈りながら登る。下りながら刈るよりも、登りで刈る方が腰にやさしいので、深仙宿、千丈平間に集中した。この区間は昨秋に2時間近くかけて笹刈りをしたので、思っていたほどは伸びていなく今回の笹刈りで来年の7月くらいまでは大丈夫なように思う。最後尾を濱野、児嶋、梶野の3名で、ヘッジトリマーで刈りながら登ったので千丈平に着くと大半のメンバーはすでに下山、沖崎さんが待っていてくれた。その後、古田の森周辺で伸びた笹を刈り、持ってきたバッテリー4個のうちの3個を使い果たし、最後のバッテリーを装着、沖崎さんが持って刈りながら降りた。



千丈平まで笹刈



古田の森付近



下山完了

登山口に着いたのは午後5時ちよつと前、溢れていた車も5台が残っているだけだった。沖崎さんと別れて靴を履き替えていると降りてきた人が階段の上から何やら声をかけてきた。「笹を刈ってくれたんやね」とお礼を言われた。降りてきて立ち話をする事20分泉南の人で、大峰が好きで奥駈道をよく歩いているそうだ。「3〜4年前に笹を刈ってた東大阪の人、どうしてますか？最近ひとつも見かけませんけど」と聞かれた。青木ファン一人発見だ。この人との話で登山口を離れたのは午後5時半、すぐに真つ暗になり帰宅したのは午後8時丁度だった。

(記；梶野)

行動タイム

登山口08:45→09:25不動木屋登山道分岐→10:10古田の森→11:15釈迦ヶ岳11:30→12:50都津門→13:20深仙宿13:55→15:53古田の森→16:21不動木屋登山道分岐→16:55登山口